

角鹿 キミ(つのか・きみ)

1、プロフィール

歌人。昭和16年に短歌結社「創作」に入会し大橋松平に師事。20年から55年まで作歌中断ののち、平成元年に「樹林」創刊に参加し、大坂泰に師事する。

<生没>

1913(大正2)年6月9日 ~ 2009(平成21)年10月10日

<代表作>

『野辺地にて』

<青森との関わり>

野辺地町生まれ。「樹林」の青森支部長、「野辺地短歌会」にも入会し地域の指導的役割を担い後進の育成に尽力した。

2、作家解説

角鹿キミの短歌は、昭和12年日本赤十字社救護看護婦で北京兵站病院の勤務中に、「通州の日本人旅館に一本の桜咲きゐてみ戦つつく」を作って発表したのが機縁となり、16年に「創作」に入会し大橋松平に師事した。

引き続き戦争中の台湾、マニラ、ラバウル、パラオ等南方転々中、歌誌「歩」「同方会誌」「台湾」に戦中詠として発表した。これらの従軍看護の体験から捉えた作品は、極めて特異性のある作品である。

しかしあわただしい終戦の年の20年から55年まで作歌を中断し、57年に再び「創作」に拠り短歌を作り始めるまでに35年余り要した。59年に地域の「野辺地短歌会」にも入会した。平成元年に「創作」を退会し「樹林」創刊に参加、大坂泰に師事し積極的に作歌に取り組み「樹林」の運営委員、青森支部長を歴任された。

歌集『野辺地にて』の序にかえて大坂泰は、「著者はすでに序文など要しない確かな歌人であると同時にかなの大家鈴木翠軒・宮川翠雨の門下であり、すでに

日展の入選も果たしている。書と歌と相互補完しながら今日に至っている。それに氏のルーツは会津にある。(中略)それが作品のどこかにただよっている」と述べている。

大坂氏が述べているように、キミは昭和 49 年に書を宮川翠雨に師事し、日展に入選するなど書家としても活躍され、野辺地書道協会長を 30 年余り歴任された。また野辺地高等女学校同窓会長も 30 年余り歴任され、野辺地町方言を語る会にも参加された。これらのことがキミの短歌の厚み、深みをより一層もたらせている。

野辺地文化奨励賞の受賞、「樹林」の青森支部長、「野辺地短歌会」の指導的役割を担い地域の短歌の普及と後進の育成に尽力された。

3、資料紹介

○『野辺地にて』

図書

2002(平成 14)年9月 28 日

195mm×135mm

I 部は昭和 57 年から 64 年までの「創作」、平成元年から 14 年までの「樹林」作品。II 部は昭和 16 年から 19 年の「南方轉々・戦塵抄」に戦後回想作品を加えた著者の第一歌集。樹林叢書。大坂泰の序にかえて、著者の近影と色紙、あとがき、略歴を掲載している。